

イルカとの触れ合いの可能性



特定非営利活動法人
日本ドルフィンセラピー協会

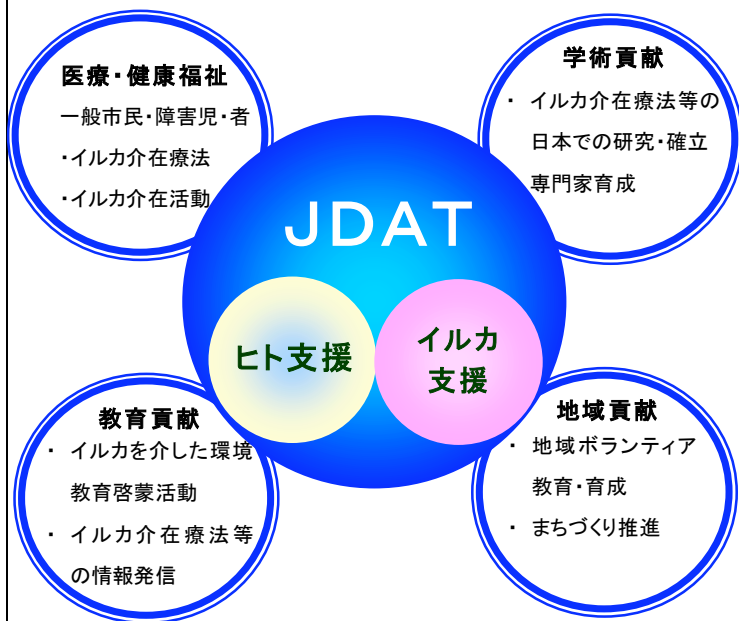


Association

NPO法人日本ドルフィンセラピー協会(JDAT)は、人とイルカとの相互作用に関する科学的研究を行い、障害児とその家族および一般の人々に対する、イルカ介在活動、イルカ介在療法などに関する事業を行うとともに、イルカ介在療法、イルカ介在活動の専門家育成を行う事を目的とした団体です。またその研究成果を発達教育・療育、社会教育、福祉、医療、自然環境等に役立て、心豊かな社会生活の実現に寄与したいと考えております。

JDATの目的

- 人とイルカとの相互作用に関する科学的研究。
- 障害児とその家族および一般の人々に対するイルカ介在活動、イルカ介在療法に関する事業。
- イルカ介在療法の専門家育成。
- 研究成果を教育・療育・福祉・医療・自然環境等に役立て、心豊かな社会生活の実現に寄与。



学術面での社会貢献

- 日本におけるイルカ介在療法、介在活動の調査・研究は未だ始められたばかりであり、イルカ介在療法、介在活動の実践を通してその有効性を調査検討し、社会に還元する。

医療・健康福祉支援

- **イルカ介在療法**
 - ① 健康増進型の予防医療の一環として位置付け、一般社会生活のメンタルヘルスケアなどの利用法（例えば企業のメンタルヘルスケア）
 - ② 発達障害に代表される治療教育技法の一環として位置付け、また不登校などの心理的問題/精神障害に対するリハビリテーション医療の一環として位置付けができる。
- **イルカ介在活動**
 - ① 余暇活動の一環として、障害をもつ方々だけでなく、社会生活の質の向上、レクリエーション活動としての利用価値は大きい。

豊かな社会生活を送ることを提言

教育

- イルカを飼育する上での様々な環境を通して、園児、児童、学生へ海洋環境等への関心を高める。
- 学校教育における環境教育の啓蒙活動を推進。

地域・コミュニティ

- **イルカを介した活動**
 - ① 一般市民、地域住民のボランティア活動への参加協力。
 - ② 地域住民の自然環境への関心と理解を高める。
 - ③ 実施地域のアイデンティティづくり、まちづくりに貢献。
 - ④ 地域スポーツと違って、全ての人が楽しめ、健康や幸福感を増進。

専門家の育成

- **発達障害の発達支援の専門家育成**
・特にイルカ介在療法の専門家育成。
- **発達障害に関わらず、その他専門家育成**
・身体的機能障害、心的障害等
- **イルカ自身に関わる専門家育成。**

JDAT設立までの経緯

平成14年 香川県さぬき市での取組み

- 平成14年6月から、香川県さぬき市津田町イルカ試験飼育場を管理・運営する(株)アスクジャパンと、中京大学、浜松医科大学、麻布大学、大阪府立大学、帝塚山大学等々と、試験的なイルカ介在療法およびイルカ介在活動の調査、研究を行う。

イルカ介在療法	36 家族参加。(待機家族 約 100 家族)	イルカ介在活動	一般約 300 家族参加。障害児約 30 家族参加
---------	-------------------------	---------	---------------------------

平成14年 南知多ビーチランド(愛知県美浜町)での取組み

- NOP法人と南知多ビーチランドとの共同研究
- | | |
|---------|-----------|
| イルカ介在療法 | 約 40 家族参加 |
|---------|-----------|

平成14年10月 日本イルカセラピー研究会設立 (NPO法人日本ドルフィンセラピー協会の前団体)

- 四国地域の心理や教育などに携わる専門家を対象として、発達障害の発達支援の研修コースを開催する。
- 目的 発達障害の専門家育成 -イルカ介在療法の前提として、発達障害の発達専門家を育成する。
 - 平成14年度 平成14年10月、平成15年1月、3月研究会開催
 - 平成15年後 平成15年5月、6月、7月 研究会開催

JDATからの提唱

イルカとの触れ合いを中核とした、人と自然との新しい関係、新しい健康と幸福感の創造のために。

従来の福祉の発想の限界

- 『福祉国家』モデルからの展開。
- 『自立すること』や『人生の価値の創造』の為の投資視点の転換。
- 健康を増進し、必要なリフレッシュを確保することで精神的な健康増進が図れる。
- 発達障害の多くは継続的な発達支援の中で就労(企業就労)は可能。『納税者』を育てる為の施策の必要性。地域でできることの大切さ(脱入所施設)
- 『してもらう』福祉から、当事者が自分達で自立を創造する形へ。障害が重くとも『その人らしく』生きることの重要性。

『健康』も『自立』も『人生の価値』も作り出すもの

- 健康の増進によって、医療費の削減モデル:健康増進のための戦略的な発想の必要性
- 発達障害であれば、早期からの介入によって、社会的自立の可能性をあげてゆく施策は可能。地域のなかでの様々な発達支援の場やエージェントを育てることが必要。
- 『余暇』の再定義の必要性:『余暇』は健康増進のためのもの。
- 『癒し』の場での健康の増進。

予防的・健康増進的な福祉施策の必要性

- 健康増進型の場(福祉施設)の必要性。
- 成長期の学びの場所と『癒し』の場所、挑戦の場所が分離されることの問題点。
- 健康増進=スポーツ は発想が貧困。
- 発達支援という観点に立ったときに、『治療』と『教育』は一体のもの。
- より魅力的なソフトは何か …… イルカとの触れ合いの可能性

イルカとの触れ合いの意義 の可能性

イルカ介在療法

- 平成16年9月 イルカ介在療法実施地域での新しいタイプの健康増進型福祉施設の可能性。
- 動物と人との触れ合いの意義。
- 非日常での人と人との新しい関係性。
- 海洋での人の癒し。
- 一般の人の健康増進のための戦略的余暇。
- 発達障害の発達支援
- 精神障害や心理的障害の心理的支援。



イルカ介在療法施設が存在するメリット

- ◎ 地域のアイデンティティ:全ての人を対象として、敗者を作らない健康増進。
- ◎ 健康増進型施設の福祉施設のもつ新しい観光効果。
- ◎ 『癒し』の集客効果。
- ◎ 観光が単なる消費ではなく、新しい余暇や健康の創造に繋がる。
- ◎ 発達障害などの発達支援の専門家がいることの意義—発達障害の潜在人口。
- ◎ 動物との触れ合いのなかで新しいタイプの環境教育—特色ある修学旅行等の可能性。
- ◎ イルカの新しい利用性、利用価値の転換



各地での進行状況

- **愛知** ー平成 15 年～ 民間水族館南知多ビーチランドとNPO法人アスペ・エルデの会との協働研究としてイルカ介在療法を実施
 - ー平成 16 年度 イルカ介在療法スタッフ養成講座開講(「ドルフィン・カレッジ」)
 - ー平成 18 年 7 月 日間賀島にてイルカ介在療法を実施
 - ー平成 19 年 5 月～7 月 日間賀島にて人とイルカの触れ合い体験事業を実施
- **香川** ー平成 15 年 8 月 9 月 イルカ介在療法実施
 - ー平成 15 年 8 月 イルカ介在療法を中心とした発達支援サマーキャンプを実施
 - ー平成 15 年 8 月 『イルカセラピー入門』出版(ブレーン出版) 平成 14 年度の愛知および香川での取組みの紹介
 - ー平成 15 年 12 月 『イルカ介在活動』一般講演会
 - ー平成 16 年～ ドルフィンセンターにてイルカ介在活動実施
 - ー平成 19 年度 7 月～11 月 ドルフィンセンターにて青少年ボランティア育成事業(福祉医療機構助成事業)実施
- **大阪** ー平成 18 年 11 月～12 月 堺市内で産学官連携共同研究開発事業としてイルカ介在療法の研究を実施
 - ー平成 19 年 9 月～11 月 堺市内で産学官連携共同研究開発事業としてイルカ介在療法の研究を実施
 - ー平成 20 年 1 月 堺市内でパネルディスカッションとスライドショー上映会を実施
- **高知** ー平成 15 年 9 月 室戸市で試験的イルカ介在療法実施
 - ー平成 19 年 室戸ドルフィンセンターにおける協会監修看板の協力、講演活動の協力
- **山口** ー平成 15 年～ 下関市立しものせき海響館と市立病院との連携でイルカ介在療法実施

現在は自閉症の発達支援を中心として行っているが、今後難病などのさまざまな障害に対する精神的支援や、引きこもり、不登校などの心理的問題への介入、精神的健康の増進などについても、取り組んでいく予定。

平成20年度の活動予定

- **愛知** ー平成 20 年 5 月～7 月 日間賀島観光協会主催『人とイルカとの触れ合い体験事業』に協力予定
 - ー平成 20 年 5 月～7 月 日間賀島にてイルカ介在療法実施(協力 NPO 法人アスペ・エルデの会)予定
 - ー平成 20 年 5 月～10 月 南知多ビーチランドにてイルカ介在療法実施予定
- **香川** ー平成 20 年 4 月～10 月 ドルフィンセンターにてイルカ触れ合い特別活動実施予定
 - ー平成 20 年 4 月～10 月 ドルフィンセンターにてうつ状態、うつ病向けイルカ介在活動実施予定
 - ー平成 20 年 7 月 青少年ボランティア育成イベント実施予定
 - ー平成 20 年 10 月 専門家育成講座セミナー実施予定 会員向け優待イベント実施予定
- **大阪** ー平成 20 年 11 月 専門家育成講座セミナー実施予定
 - ー平成 21 年 スライドショー上映会実施予定
- **山口** ー平成 20 年 海響館にてイルカ介在療法実施予定(下関市民限定)
 - ー平成 20 年 専門家育成講座セミナー実施予定
- **高知** ー平成 20 年 専門家育成講座セミナー実施予定
- **和歌山** ー平成 20 年 7 月 会員向け優待イベント実施予定

ドルフィンセラピーに関わる専門家の関心

- 発達支援の専門家としては、地域のなかで発達障害の子供達が育ち、そこで専門家が育っていく仕事に関心がある
- イルカ関係の専門家としては、イルカたちの繁殖や、水族館などから引退後の場としてのイルカたちにとっての新しい保護の観点、イルカたちも幸福な場となるための関心がある。
- 新しいビジョンをもつ、異なった専門家(医療・教育・福祉・動物等々)たちが交流できるプロジェクトとしての魅力。
- 新しい雇用機会、雇用形態の創造。



○ JDAT役員

理事長	(理事)	青木 美香 (大阪府立大学 獣医師)
辻井 正次 (中京大学 臨床心理士)	西村 昌数 (帯広畜産大学 獣医師)	櫻井 秀雄 (関西福祉科学大学 臨床心理士)
副理事長	森 健治 (徳島大学 小児科医師)	加藤 邦夫 (高知大学 精神科神経科医師)
浅木 裕志 ((株)アスクジャパン代表 獣医師)	黒葛原 健太郎 (中部短期大学 臨床心理士)	堀尾 全一 ((株)堀尾電気社長)
中村 和彦 (浜松医科大学 児童精神科医師)	長谷川 修平 (南知多ビーチランド 所長)	鈴木 宏之 (日間賀島観光協会 会長)
		(監事)
		立野 省一 (立野省一法律事務所 弁護士)

○ JDAT事務局

事務局長 寺山 弘樹 ((株)日本ドルフィンセンター センター長 獣医師)

事務局 伊藤 ゆう子

会員登録 JDATでは以下の会員募集を行っております。

一般会員はイルカ介在療法および介在活動をご参加いただく方を対象としております。個人・団体は問いません。

一般会員	(H20年度)個人 入会金・年会費 2,000円	参加特典	<ul style="list-style-type: none">□ イルカ介在療法・活動への参加。□ イルカ介在療法・活動の情報提供。(ML、情報誌)□ 各種講演会・講習会などの優先参加権。□ その他動物介在療法・活動の情報提供。(ML、情報誌)□ イルカに関する情報提供。(ML、情報誌)
-------------	-----------------------------	-------------	---

賛助会員は本協会の活動に賛助頂きます単体を対象としております。

賛助会員	(H20年度)団体 入会金 10,000円 年会費 30,000円	参加特典	<ul style="list-style-type: none">□ イルカ介在療法・活動の情報提供。(ML、情報誌)□ 各種講演会・講習会などの優先参加権。□ その他動物介在療法・活動の情報提供。(ML、情報誌)□ イルカに関する情報提供。(ML、情報誌)
-------------	---	-------------	---



協会へのお問い合わせ net_toiawase@jdat.jp

会員お申し込み(インターネット) <http://www.jdat.jp/kaiin.html>

www.jdat.jp 特定非営利活動法人 日本ドルフィンセラピー協会

〒593-8302 大阪府堺市西区北条町1-5-21 長嶋ビル1F